

第3回会議における主な意見の集約①

(主な意見)

(小中学校)

・公共施設の再編という観点から考えると、小規模校へ就学させることは保護者として躊躇すると思うので、まず学区ごとの将来の児童生徒数がどう伸びていくのかを推計し、学区を見直していくことが必要だと考える。学校が複数ある地域は、建築年数の新しい学校へ通っていただくような方策をとり、一方の学校は、廃校や他の施設にすることで再編を進めることが必要である。保護者へ市の方向を示した上で、学区外就学を認めないということも考えた方がよい。

(スポーツ施設)

・市民も高齢化するとともに、趣味嗜好が変わるため、求める施設も変わると思う。

(スポーツ施設)

・これから高齢社会になっていく中でスポーツができる場所を確保することは必要だと思うが、市の施設だから使用料は安くないといけないということはなく、民間施設の単価に近い単価でもよいと思う。
・柏市で福祉団体や教育団体への割引があるのか分からないが、割引はなくてもよい。市としては、受益者負担を考えることも必要だと思う。
・収支状況について、現状、施設修繕費と整備費で約8千万円かかっているが、使用料等の収入は約4千万円である。近隣センターは住民サービスという点で利便性があるため、修繕費、整備費分くらいは会議室の使用料等で徴収してもよいと思う。検討していただきたい。

(取組みの方向性)

・中長期的な市民ニーズの変化に応じたサービスの提供

・受益者負担の適正化

第3回会議における主な意見の集約②

(主な意見)

(スポーツ施設)

- ・相撲場などスポーツ施設の中でも稼働率の低いものについては見直し、全体的な経費を削減していく方向にもっていくのがよいと思う。
- ・限られた予算の中で取捨選択をしていくことを考えると、絶対に必要な施設と、ないよりあった方がよい施設とに分け、稼働率や利用者の意見を踏まえて削減すべき施設は削減する必要があると思う。例えば、プール施設については、近隣市の保有状況や維持費、民間施設の状況等を考慮し、運営をやめてしまってもよいと思う。
- ・徐々に削減していくというより、分野ごとにメリハリをつけて運営方針を決めていく部分だと思う。

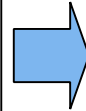


(取組みの方向性)

- ・施設総量の抑制
- ・低稼働率施設の削減

(近隣センター)

- ・各近隣センターで利用者数にかなり差があるが、今後、「1コミュニティエリアに1館整備する」という原則を見直す、あるいは、地域によって弾力的に運用していくという考えはあるか。防災拠点としての機能は学校での複合利用が考えられる。



- ・類似の機能の集約
(統合)
- ・多様な機能の集約
(複合化, 多機能化)

第3回会議における主な意見の集約③

(主な意見)

(保育園)

・公立ではなく民間の保育園を作っていく傾向はよい。保育園を減らすことは難しいが、今後は、公立保育園を民間にお願いできないかを考えてもよいと思う。

(市営住宅)

・昭和30年代の建物をメンテナンスするのは現実的ではないし、代替措置を視野に入ると、現在保有している833戸を全て維持していく前提での修繕計画でなければいけないのかどうかを議論していく必要があると感じた。
・民間の建物そのものを市が借り上げて、現状の市営住宅と同様に運営すれば、建物を建てずに済む。

(全般事項)

・これまで各施設の現状を聞き、いろいろなことがよく分かったが、市民目線では同じ機能を持った施設でも、各セクションの横の連携が見えず、それぞれが別々の動きをしていると思われる。そこを横断的に考えるのが行政改革としての考え方だと改めて思った。

(近隣センター)

・今後、施設の集約化を考えるに当たって、各近隣センターがそれぞれ備えている施設、機能の一覧表を示してほしい。
・中学校と近隣センターは、設置単位が同じ「コミュニティエリア」単位であるため、施設を比較する資料があれば、具体的に集約化を検討できる。比較できる資料を示してほしい。
・各施設の機能をクロスするような資料がほしい。

(取組みの方向性)

・民営化の推進
・民間施設の活用

・施設管理の適正化に係る
横断的な取組み

・施設の見える化
(情報の一元化)